

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

科学的根拠に基づくがん情報の迅速な作成と提供のための体制整備のあり方に関する研究

研究分担者 横川 史穂子 長野市民病院 看護部 師長

研究要旨

本研究は、がん診療連携拠点病院の現状を把握し、活動を客観的に評価するとともに地域格差を是正することを目的にがん診療の現状を評価する指標を策定するための検討を目的とする。令和5年度に全国のがん診療連携拠点病院22施設に直面インタビュー調査を実施した。地域性や各施設の特徴など含むインタビュー調査から得られた内容を基に評価指標の素材を抽出し、ロジックモデルの原案が策定され、研究者間でコンセンサスの形成を行った。検討の結果以下のコンセンサスが形成された。整備指針の領域別のロジックモデルを作成するために、各指定要件の実施及びその程度をアウトカム指標として、それらが達成すべき中間アウトカム、分野別アウトカム、最終アウトカムに基本計画を反映した内容とする。今後の課題としては、インタビュー調査とアンケート調査で得られた知見から、望まれる考え方や指標を取り込んで、がん診療連携拠点評価のためのロジックモデル最終案を完成させる。

A. 研究目的

がん診療連携拠点病院の役割は、国民に標準的な医療を提供できるように、医療の質の均てん化を図る必要がある。しかし、現在全国のがん診療連携拠点病院の活動を評価する方法が存在しないことから、さらなる均てん化を推進することができない状況にある。よって、がん診療における都道府県単位や各病院単位の診療格差が生じていることが推察される。そこで本研究は、がん診療連携拠点病院の現状を把握し、活動を客観的に評価するとともに地域格差を是正することを目的にがん診療の現状を評価する指標を策定するための検討を目的とする。

B. 研究方法

令和5年1月～8月にかけて、大学病院、総合病院、がんセンターの特性の違いや地域の特性も考えながら、都道府県がん拠点（9施設）、地域がん拠点（7施設）、都道府県がん診療連携協議会（3都県）、都道府県行政（3県）への対面でのインタビュー調査を行った。意見交換において出された発言は、参加者の許可を得て録音し、発言内容を箇条書きで列記し、整備指針にあげられている項目に沿って整理した。

（倫理面への配慮）

本研究における調査について、対象施設のインタビュー可能な状況を調整し、実施した。また、得られた情報は整備指針に関する施設や研究者へのインタビュー調査のため、個人情報保護上は特に問題は発生しないと考えた。

C. 研究結果

がん拠点の運用状況や進捗等を確認できる客観的な評価指標の策定に向けて、がん拠点評価のためのロジックモデル原案策定し、コンセンサス会議を実施し、ロジックモデル案の修正を行った。

D. 考察

がん診療連携拠点病院の整備指針における領域別のロジックモデルを作成するために、各指定要件をアウトカム指標とした。アウトカム指標が達成されるための中間アウトカム、分野別アウトカムを明確にした。この活動は、各要件やアウトカムが求めるものを言語化しそれらが意味すること、目指していることをロジックモデルで見える化することによって、がん診療連携拠点病院の活動を評価する。

E. 結論

がん診療連携拠点病院の活動を評価するロジックモデル案の策定と修正を行った。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表

なし

**H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む)**

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他
なし